

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年9月12日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0873300701		
法人名	有限会社 グループホーム来夢		
事業所名	グループホーム 来夢	ユニット名	1番館
所在地	〒319-2255 茨城県常陸大宮市野中町3050-1		
自己評価作成日	平成28年5月11日	評価結果 市町村受理日	平成28年9月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873300701-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成28年6月8日	評価機関 決 済 日	平成28年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者様の認知症の症状にあわせ、出来る限り本人の希望、気持ちに添える様に、チームにてケアに取り組んでいる。</p> <p>入居者様の水分量、食事量、排便コントロール等健康管理を支援している。</p> <p>全職員が、日本スウェーデン福祉研究所の研修を受講し、認知症ケアに取り入れている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人の代表者は、2015年より認知症の緩和ケア研究を行なっているスウェーデンで研修を受け、研鑽を積みながらタクティールケアの実践を地域に広めようと活動しているほか、茨城県地域密着型介護サービス協議会の理事を務め、認定審査会の委員や認知症サポーター研修の講師を務めている。</p> <p>各ユニットの管理者は、地域のグループホーム連絡協議会の役員を務め、市や地域の同業者と連携を密にしながら、利用者や地域の認知症高齢者の支援に尽力している。</p> <p>家族会が定期的に庭の草取りや家庭菜園の管理をしてくれているほか、利用者の部屋の清掃や衣服の管理をしている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念カードを携帯し、ケアに心がけている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を経営者と管理者で作成し、玄関や事務室、居間兼食堂に掲示するとともに、職員は理念カードを携行して朝礼時に確認し、共有して実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣を散歩中に挨拶を交わすなど、交流を図っている。	事業所は自治会に加入しており、管理者が新年会やお悔みの席に参列しているほか、利用者は散歩のついでに回覧板を回して、近隣住民と挨拶を交している。 5月には利用者と職員で作った柏餅を近所に配ったり、秋のふれ合い祭りでは、駄菓子屋を出店した。 同一法人合同で行うクリスマス会や敬老会では、三味線やフラダンスのボランティアが来訪し、利用者を楽しんでもらった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が認知症サポーターの講師として地域の方へ講演している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回実施している。	運営推進会議は家族等の代表者や市職員、市議会議員、地域住民、管理者で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 事業所からは運営状況や行事報告のほか、外部評価の結果報告などをして、意見交換を行なっている。 市職員から激励の言葉を受け、職員一同利用者へのケアサービスの再認識を行なった。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営者は審査会の委員として担当者と関係を築いている。	市担当者が毎回運営推進会議に出席しているほか、市からの信頼も厚く、管理者は介護保険の更新申請などで直接市に出向き、入居状況の報告やアドバイスを受けながら、連携を図っている。 地域のグループホームで組織している、グループホーム連絡協議会に市の職員も参加しており、そこでも情報交換をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	感染以外は拘束は行っていない。日中は鍵をかける事はせず、外出したい時は一緒に出かけるなど本人の意に添うよう努力している。	身体拘束をしないケアに関するマニュアルを作成するとともに、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに努めている。 法人代表が年1回身体拘束に関する外部研修を受講しているが、マニュアルや研修結果に基づいて内部研修を行うまでには至っていない。 「高齢者虐待の防止と早期発見のための指針」のポスターを廊下に掲示し、全職員で共有している。	法人代表が受けてきた外部研修やマニュアルに基づいて、全職員が禁止の対象となる具体的な行為を理解できるよう、定期的に内部研修を行う事を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内の勉強会で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度を活用している入居者様は1名いる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に家族に契約書を提示、契約時には読み合わせを行っている。不明な点がある時は連絡下さいと伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様から要望を聞き記録、出来る限り叶えられる様に努力している。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記して、契約時に家族等に説明しているほか、意見箱を設置している。 利用者からは日々のふれ合いの中で、家族等からは面会時や家族会時に意見や要望を聴くように努めている。 事業所では入浴日時を特に決めていないので、「入浴日時を決めると心の準備ができて、入浴を拒む利用者でもスムーズに誘導できるのでは」との家族会での意見を受けて実施したり、利用者から「近隣に新しくできた道の駅に出かけたい」との要望を受けて、外出計画に組み込み実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の介護負担を考慮し、車輛を購入する。	管理者は月1回の職員会議などに、職員の意見等を聞くように努めている。 年2回の職員健康診断の結果を基に、法人代表と職員は面談を行い、シフトの調整などの相談を聞いているほか、重度化にともない外出が困難になってきた利用者のために、職員の提案を受けて車いす対応の車両を購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望休の配慮や夜勤勤務できない職員への配慮をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月全体ミーティングで事業者各1名づつ職員が課題に添って勉強会を行なっている。 日本スウェーデン福祉研究所の研修に職員全員が参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は全国、県などの協会に入会され、研修会に参加し、同業者との情報交換を行っている。又地域のグループホームとも協議会を通して質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前後に本人と面談をし、どのような不安があるのか今後の暮らし方を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後、施設長、管理者と面談の中で、家族の不安を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望を聞き、他のサービス利用を提案した上で家族が納得をされて入所を決めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の能力に合わせ、一緒に家事を行っている。（食器片付け・洗濯ものたたみ）昔の出来事を聞きながら支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	協力できる事を家族にお願いしている。行事への参加、病院受診、面会の声掛け、外出のお願い等。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の訪問の際、十分にコミュニケーションが取れない為、間に入り支援している。又、次回の面会の声かけを行っている。	入居時の聴き取りや利用者との日々の会話などから、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するよう努めている。 利用者の友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるよう配慮している。 馴染みの理・美容室や店での買い物、外食、墓参り、自宅への外出などに家族等の協力を得ながら支援しているほか、馴染みのマッサージ師の訪問を受け入れるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、人間関係を把握し、トラブルが起きない様、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も管理者が家族への訪問を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3ヶ月に1回の介護計画の見直し時に本人に聞いたり、困難な入居者様に対しては本人がどのように日々、感じているのかを考えて計画を立てている。	職員は利用者との日々の関わりの中で、コミュニケーションを図りながら情報を収集し、一人ひとりの暮らしの希望や要望を把握している。 意思疎通が困難な利用者の場合は、表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得ているほか、職員で話し合っって利用者の思いなどを汲み取るように努めている。 把握した内容は「個人記録」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、又は面会時に本人の生活歴を聞き、ケアーに生かしている。入居後も関係を深め暮らし方等聞く努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護支援経過記録を活用、個人の生活、様子、健康状態、バイタル等記録している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、又は再入所時、スタッフと話し合い、計画の見直し作成を行っている。	介護計画は利用者や家族等の意向を取り入れるとともに、管理者や職員で話し合い、計画作成担当者が作成して家族等に周知している。 基本的に6ヶ月毎に見直しをし、モニタリングと短期目標は3ヶ月毎、長期目標は6ヶ月毎に設定している。 定期的にモニタリングを行い、利用者の心身の状態等に変化が生じた場合は、随時評価をし、見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者のケアを行った結果や、今後の対応についてスタッフ日誌や入居者送り簿に記入している。職員は読んで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の同意を得て、訪問診療・訪問歯科を受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して生活できるよう交番の方と関係作りに努力し、日常的に散歩などを通じて近隣の方とふれあいを大切にしている。美容室で安心してカット出来る様、協力して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今まで通っていた病院に継続に通院できるよう家族の協力を得ている。難しい場合は、協力医に今までの病歴等を伝え、スムーズにかかれるよう対応している。	契約時に利用者や家族等に、希望するかかりつけ医への受診が可能な事を説明しており、その際は家族等が付き添うことを基本とし、医師に伝えて欲しい情報はメモを渡しているが、家族等が都合が悪い場合には職員が付き添い、受診結果は家族等に随時電話で報告している。 月1回協力医療機関の医師による訪問診療を支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化がみられた時など、看護師と連絡をとり、指示をあおいでいる。受診後は看護師に報告をし、介護の方法や注意点の指示を受け、看護師と連携をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は不安なく治療を受けられるようにサマリーを作成、又、面会に行き入院時の状況把握に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアまで行っている事を伝えている。家族などターミナルまで希望された場合には、事業所で出来る事、難しい事を十分に説明し、家族の気持ちを確認しながらターミナルケアに取り組んでいる。	契約時に利用者や家族等に重度化や終末期、看取り介護について説明し、書面にて同意を得ている。 事業所では看取り介護を行うとしているが、重度化や看取り介護に関する職員の対応マニュアルを作成したり、それに基づいて定期的に内部研修を実施し、全職員に周知するまでには至っていない。	看取り介護を実施している事業所として、マニュアルの整備とそれにともなった職員研修を実施することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタル測定、様子観察をまめに行い、不調が見られた時は看護師と連絡を取り、指示をもらい対応している。 全職員救急救命の研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯、夜間帯の避難訓練を行っている。(年2回) 消火器の使い方を学んでいる。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、課題を話し合って記録に残すとともに次回につなげているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。 災害に備えて米や水、缶詰、レトルト食品、懐中電灯、おむつ類、ガスコンロ、ガスボンベ、使い捨て食器などを備蓄しているほか、災害時には事業所から1kmほど離れたコンビニエンスストアから、食品を提供してもらえることになっている。	消防訓練に地域住民の参加が得られるよう努めることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活歴を考えながら、目線の位置を考えて、敬語を使うよう努力している。 一人一人の人格を尊重し、パーソナルスペースをとりながら、わかりやすい言葉で対応するよう努力している。	個人情報に関する家族等への説明と、書面にて同意を得ている。 職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 トイレ誘導の際は小声で声かけし、入浴時も扉は閉めるなど、プライバシーを損ねない対応を心がけている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報の漏洩に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲みたい物、食べたいメニューなど、出来るだけ選択する場面を作り努力している。りんご狩りの行事の時にはスーパーで弁当を自己選択出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを優先するよう努力している。状況により業務を優先してしまう場合がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、身だしなみを整えている。時間が空いた時をみて、爪切り等も行っている。 外出時はおしゃれ着に着替えて頂いている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームにて一緒に収穫した食材を利用したり、その人の力を活用しながら片付け準備を行っている。	利用者の好物や苦手な物、代替食を準備して職員が献立を作成し、食材は利用者と一緒に買い物に行っている。 おせちや雛祭り、誕生会にはケーキ、クリスマス会、開設記念日には赤飯などの行事食を提供しているほか、自家菜園で収穫したじゃがいもや茄子、きゅうり、ピーマンなどを食材に取り入れて、季節感のある食事となるよう支援している。 利用者はできる範囲で、食器洗いや食器拭きなどの役割を担っている。 重度の利用者が増え、職員と一緒に食事はできないが、あとから同じ献立を利用者のテーブルで摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	16時までの食事量、水分量のチェックを行い、とれにくい利用者について夜間を通し、1日1,500kcalとれるよう対応している。 朝昼夕と時間を決めず、食べたい時に提供している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じて出来る所は行って頂き、出来ない所は介助している。 イソジン、ガーゼ。舌ブラシを使用し、口腔ケアを行っている（舌苔）	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	全介助の状態になっても2～3時間毎にトイレの声かけ、誘導し、トイレでの排泄を促している。水道水を流したり、前傾姿勢にし、肛門付近に微温湯を流し、排泄を促す対応をしている。	職員は排泄チェック表を活用して排泄リズムを把握し、利用者一人ひとりのタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。 おむつからリハビリパンツに移行した利用者があるなど、利用者一人ひとりにそった支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天提供、起床時の牛乳、氷水など1日の水分量の把握をしている。腹部マッサージ、メンタシップ、下剤の使用にて排便コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人への入浴の声掛けを行い、入浴介助している。 2人介助により、職員の都合にての支援が多くなっている。	入浴は曜日は固定していないが、週2回午後からを基本とし、利用者の希望によってはいつでも可能となっている。 車いすの利用者は、シャワーチェアを使用している。 入浴を拒む利用者に対しては、職員を替えたり時間帯を変えるほか、清拭や足浴などで対応している。 柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を利用して、季節感や入浴を楽しめる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団を干し、心地よい眠りを心掛けている。 本人の気持ちに添えるよう起床の声掛けを行っている。又、うとうとされている時、居室へ誘導し静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬服用された時は状態を記録しており、副作用に早期に気付けるよう努力している。又、医師と相談している。処方箋をみて理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の力を発揮してもらえよう、出来る仕事（洗濯干し・たたみ）を頼み、「ありがとうございます。いつも助かります。」など言葉かけをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物の希望がある場合、職員声かけし、付添を行っている。行事に対しては入居者様が参加できるように職員を配置し支援している。	年間行事計画を立てて、節分に神社にいたり、花見、りんご狩り、地域の祭りなどに車いすの利用者も一緒にでかけている。花見で外食する際は、利用者と職員で好きなものを頼んで一緒に食事を楽しんだり、近隣の公園に弁当を持参しながら出かけている。同一法人他事業所と合同開催の、敬老会やクリスマス会に参加しているほか、家族等の協力を得ながら外食や墓参りに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所ではお金の管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい時には家族の都合を考えながら、取り次いでいる。家族からの電話の取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食後の床掃除、テーブル消毒を行っている。季節感を感じてもらえるようにお花を生けている。冬場の脱衣室は寒い為、シャワーにて温めてから入浴介助を行っている。	玄関には季節の花を飾ったり、行事の写真と職員の顔写真を掲示している。居間兼食堂には掘り炬燵を設置し、テーブルにも花を飾って季節感を出している。居間兼食堂からは広いウッドデッキに出られるようになっており、洗濯物を干したりその先の庭に出ることも日常的に可能で、利用者は思い思いの場所でゆったりと過ごすことが出来る環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トラブルにならないよう座席を決めている。一人一人の関係性を把握し、思い思いに過ごせる様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしている物、絵など部屋に飾っている。	各居室の扉には、自分の部屋が識別し易いように、それぞれ違う色のパネルをはめ込んである。居室にはエアコンやベッド、洗面台、カーテンが備え付けられている。管理者は使い慣れた物品を持参して貰えるよう説明しており、使い慣れた寝具類や衣装ケース、テレビ、筆筒、椅子、扇風機、目覚まし時計、家族からの葉書などを持ち込んで、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室が分からない方へ大きな表札をしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム来夢

作成日 平成28年9月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	法人代表が年1回身体拘束に関する外部研修を受講しているが、マニュアルや研修結果に基づいて内部研修を行うまでには至っていない。	全職員が禁止の対象となる具体的な行為を理解できるよう、定期的に内部研修を行う。	事業所会議、全体会議を通して、定期的に勉強会を開き、記録に残す。	達成済み
2	35	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施し、課題を話し合って記録に残すとともに次回に繋げているが、地域住民の参加を得るまでには至っていない。	消防訓練に地域住民の参加が得られるよう努める。	地域の消防団や、近隣の住民に日頃からアプローチをしていく。	1か月
3	33	看取り介護を行うとしているが、重度化や看取り介護に関する職員の対応マニュアルを作成したり、それに基づいて定期的に内部研修を実施し、全職員に周知するまでには至っていない。	看取り介護を実施している事業所として、マニュアルの整備とそれに伴った職員研修を実施する。	会社の代表者会議でのマニュアルの作成、それに伴い事業所会議、全体会議を通して職員研修を実施し記録する。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。